

**今後10年間、誰を中心に**

**まちづくりを進めるべきだと思いますか？**

「若者を中心にする」が55・1%と半数以上を占めています。次いで「壮年・熟年者を中心にする」13・5%、「高齢者を中心にする」11・9%、「子どもを中心にする」8・3%、「女性を中心にする」2・1%となっています。

**まちづくりで有効活用したいもの**

まちづくりで有効活用するものとして挙げられたのが、「住みやすい生活環境」49・3%、「自然（南アルプス、渓谷、川など）」44・3%、「川根茶などの特産品」40・8%が4割を超え、あとは「福祉施設・サービス」23・9%、「町民のまちづくり活動」17・7%、「SL・アプト式鉄道」17・3%などが続いています。

**この町の「将来の姿」を想像してください**

将来の川根本町の理想像は、「医療サービスなどが充実した町」19・7%と「自然と調和した農林業が盛んな町」18・9%が高く、次いで「商工業が活発な、若者が働ける町」14・1%、「自然環境を保全した落ち着いた町」11・9%、「便利で快適に暮らせる町」10・6%などが続いています。

年齢別にみると、「便利で快適に暮らせる町」は30〜40歳代、「自然環境を保全した落ち着いた町」は50歳代がそれぞれ平均より高くなっています。



**今後の川根本町のまちづくりは**

**何を基本としますか？**

今後の川根本町のまちづくりの基本方針について住民の選択は「自然環境の保全」56・1%、「生活中心」45・3%、「活動内容（ソフト）重視」39・7%、「個人的なまち」40・3%、「パランス型」38・2%、「町民主導」48・4%、「連携重視」39・7%となっています。

「農林業振興か、商工観光か」、「規制緩和か、保護重視か」については、意見が割れています。

**今後、この町は何に取り組んでいくべき？**

戦略プロジェクトでは、「健康・安心のまちづくりプロジェクト」51・8%が高く、次いで「若者のまちづくりプロジェクト」42・8%、

「川根本町のイメージアッププロジェクト」38・5%、「川根茶ブランド日本一プロジェクト」37・2%、「日本一の癒しの里プロジェクト」36・6%などが並んでいます。

**農林業等の活性化の取り組み**

農林業等の活性化の取り組みでは、「地元材を使った家づくり」36・4%と「有機栽培『川根茶』高級ブランド化」32・0%が高く、次いで「研修活動の支援など後継者の育成」27・9%、「消費者と提携した農業の推進」27・7%、「川根茶」のPRと販売」27・6%、「新しい川根ブランド農産物の開発」21・4%などが続いています。

**商工業や観光交流の振興のための取り組み**

商工業や観光・交流の振興のための取り組みでは、「若者やUターン者等の起業化の促進」37・8%が特に高く、次いで「起業の支援や企業の誘致」「お茶の郷」など景観形成」がそれぞれ21・6%、「日本一のSLのまちづくり」20・4%、「移住・定住対策の推進」20・2%などが続いています。

**町から得たい情報は何ですか？**

町から得たい情報としては、「まちづくりの方針・計画」42・8%、「各種行政サービスの情報」41・0%、「まちづくりの進行状況」36・4%、「町内のイベント情報」36・2%、「町の財政状況」33・7%、「議会の内容」32・9%などがほぼ並んでいます。